

令和4年度 文部科学省
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」採択事業

「多職種連携とDX技術で融合した
北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

令和4年度 事業成果報告書

弘前大学

令和4年度 文部科学省
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」採択事業

「多職種連携とDX技術で融合した
北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

令和4年度 事業成果報告書

弘前大学

目次

事業責任者 弘前大学理事（教育担当） 挨拶	1
弘前大学大学院医学研究科長 医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター長 挨拶 ..	2
秋田大学大学院医学系研究科長 挨拶	3
1. 事業概要	5
2. 実施体制	11
3. 実施内容	15
4. 参考資料	31

事業責任者 弘前大学理事（教育担当） 挨拶

弘前大学は、文部科学省による大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点に採択されました。本事業は、秋田大学、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学と連携し、「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」をテーマとして、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

弘前大学と連携校において、教育資源を医学教育クラウドプラントで共有し、医学教育専門家が多職種連携の要素を組み込み、青森県と秋田県内で運用できるように精錬します。このプロセスを通じて北東北で共有可能なオンデマンド教材や教育プログラムなどの教育資源（地域医療教育コモンズ）を創出することで、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成する予定です。

皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事業責任者
弘前大学理事（教育担当）
郡 千寿子

弘前大学大学院医学研究科長 医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター長 挨拶

令和4年度に、弘前大学は、文部科学省公募の大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における全国11拠点の一つに選定され、研究科附属地域基盤型医療人材育成センターを設置しました。

本センターは、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供できる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点となることを目的としています。

このため、本学医学部は本センターを介して、秋田大学医学部、弘前学院大学および弘前医療福祉大学と連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育を実施しております。

令和4年度の事業成果をまとめましたので、ここに報告させて頂きました。
よろしくお願ひ申し上げます。



弘前大学大学院医学研究科長
医学研究科附属地域基盤型
医療人材育成センター長

廣田 和美

秋田大学大学院医学系研究科長 挨拶

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」の初年度事業完了にあたり、ご挨拶申し上げます。

世界でもトップレベルの高齢化と人口減少の先進地域である北東北の青森県、秋田県にとって、地域住民や患者に良質な医療サービスを提供する医療人の教育・育成は最重要課題であり、その課題達成にはデジタル化、遠隔化が大きなポイントと考えております。

弘前大学が代表となり牽引、リーダーシップを発揮されている本事業において、本学では、すべての卒業生に医療連携・多職種連携を含めた総合的診療能力に長けていただくために、学内の基礎・社会・臨床医学全講座と秋田県内医療機関の指導医・指導者が協力し、統一化された医学・医療教育を推進・遂行できるよう、デジタル教育コンテンツと提供システム構築に主眼をおいてきました。この医学・医療教育のデジタル化と本事業の遂行・推進のために、令和4年12月1日、秋田大学大学院医学系研究科に「先進デジタル医学・医療教育学講座」、ならびに「デジタル医学・医療教育推進センター」を開設し、順次人員を配置してきました。

初年度は、上記体制構築と共に、1) 基本的診療技能に関する各分野デジタル教材の作成を開始、2) 臨床実習にご協力をいただいている県内医療機関の指導者と教育内容を共有するe-ラーニングネットワーク体制の構築、3) 病院内の全学生・職員向けネットワーク環境整備、4) オンラインシミュレーションセミナーの共有計画、等を進めてまいりました。

今後、弘前大学、秋田大学ならびに青森県内の参画2大学の特徴を生かした各種デジタル教育コンテンツの開発・共有や、学内～県内ネットワークを生かした効果的な医学教育が可能となり、本事業の目標を達成することが期待されます。このような機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。本事業の推進・発展のために、秋田大学医学部職員一同、秋田県内の関係各位のご協力を仰ぎながら鋭意、力を尽くしたいと考えております。



秋田大学大学院医学系研究科長
羽渕 友則

1. 事業概要

Outline

【1】ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業とは

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域における医療体制の見直しや医師の地域偏在及び診療科偏在を解消する重要性が再認識されるとともに、高度医療の浸透や地域構造の変化（総合診療医の需要の高まり、難治性疾病の初期診断・緩和ケアの重要性等）を踏まえた新時代に適応可能な医療人材の養成といった課題が浮き彫りとなったところ、これらの課題解消に資するためにも、地域にとって必要な医療を提供することができる医師を養成するための学生への学部段階からの動機づけ・資質能力の育成を図る実習・講義等の教育プログラムの更なる充実が求められている。

本事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。

【2】「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

1. 事業概要

弘前大学は、文部科学省が公募した大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の全国11拠点のうち一つに選定された。

同事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。

選定された本学の事業は「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」と題し、本学医学部、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としている。

参画4校の教育資源を医学教育クラウドプラントで共有し、医学教育専門家が多職種連携の要素を組み込み、青森県と秋田県内で運用できるように精錬し、このプロセスを通じて北東北で共有可能なオンデマンド教材や教育プログラムなどの教育資源（地域医療教育コモンズ）を創出して、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成する予定である。

2. 教育プログラム

本事業で構築した「多職種連携」、「遠隔教育・データサイエンス」、「救急・被ばく医療教育」、「総合診療・感染症教育」を核とする教育プログラムを受講した学生が、地域ニーズの高い医療へキャリア展開をすることで、将来深刻化する過疎化により増加するへき地医療に従事する総合診療医養成、新興感染症パンデミックや複合災害に迅速に対応可能な救急・災害医療体制の確立、パンデミック・災害の双方に対応可能な遠隔診療体制の整備を図り、北東北、ひいては高齢化と人口減少が想定されている日本国内の他の地域や諸外国に対しても、本事業での成果を普及させることで、社会に貢献していく。

3. 事業目標

- ・地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ量産
- ・地域枠学生の定着率5%増もしくは100%達成
- ・全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
- ・総合診療領域の医師数が地域枠入学者数の約2割に到達
- ・救急および感染制御を専門とする医師数を約3倍に増加

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 (弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学) 多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

課題・背景

- 2045年までに北東北は高齢化と人口減少が進行し、過疎化が深刻化
- 臓器別専門医学では解決できない問題を持つ患者・住民が増加

解決策

- 総合的な視点（住民のライフサイクル・地域・多職種連携）を涵養する医学教育
- 急性期・慢性期患者の複合的問題・パンデミックに対応できる総診・救急・感染症医養成
- 北東北2国立大医学部の医学教育グッドプラクティスを融合する教材クラウドプラットフォーム創設

事業内容

- 地域医療教育コモンズ創出
 - ◆ 総合診療（地域医療）・救急・感染症教育等の教育マテリアルを教材クラウドプラットフォームに投入
 - ◆ 専従医学教育専門家がユニバーサルな形態に加工
 - ◆ 創出された地域医療教育コモンズを文脈毎に活用
- アウトプット・アウトカム**
1. 地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ量産
 2. 地域枠学生の定着率5%増もしくは100%達成
 3. 全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
 4. 総合診療領域の医師数が地域枠入学者数の約2割に到達
 5. 救急および感染制御を専門とする医師数を約3倍



多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ





秋田大学【総合的な診療能力育成/6年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラム】

**本連携事業：多職種連携とDX技術で融合した
北東北が創出する地域医療教育コモンズ**

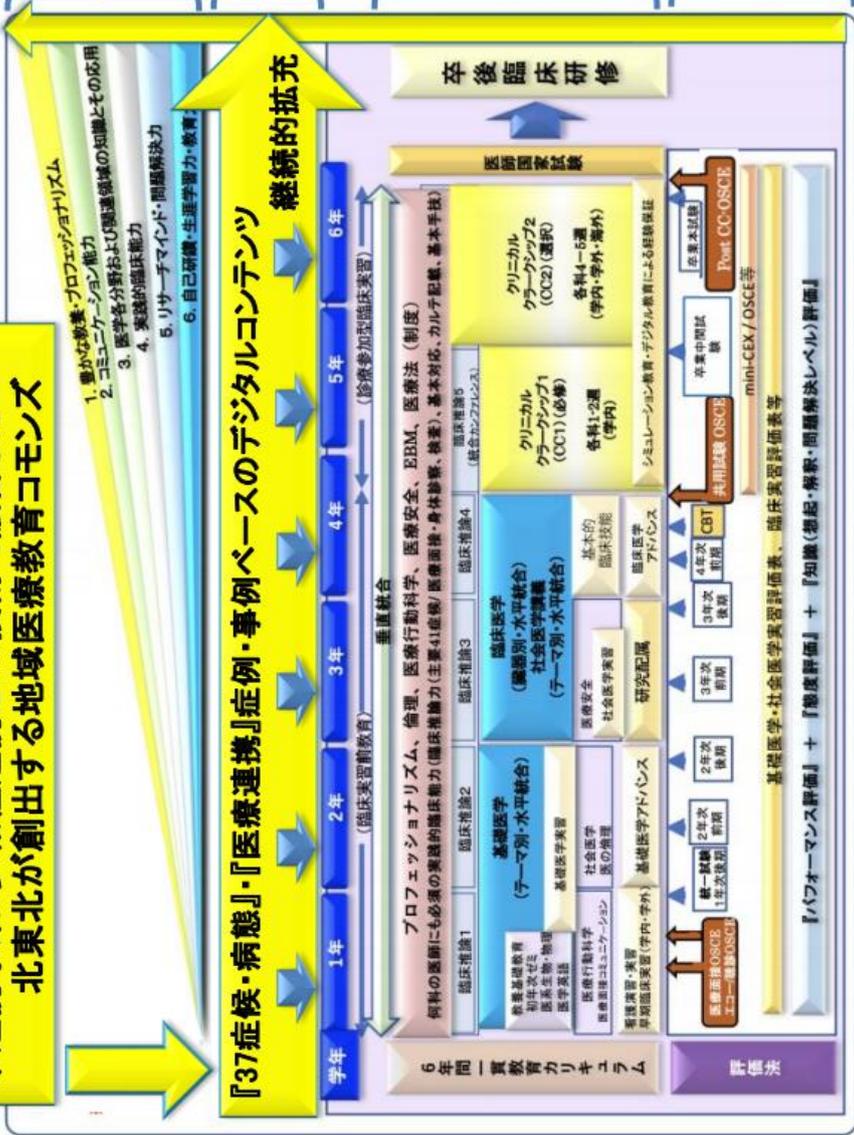
**目標：卒業生全員の総合的な診療能力を向上
⇒地域医療を維持し感染症対応できる
『総合診療専門医』・『総合力ある各科専門医』**



**学内・学外指導者
デジタルコンテンツを共有**
⇒教育効果を
継続的に向上！
⇒目標に向かって
6年間一貫水平・垂直
統合教育推進！

**『基礎・社会・臨床医学講義』・『多職種連携教育』・
『各種シミュレーション教育・感染症対応等』・
『診療参加型臨床実習』**
⇒ **デジタルコンテンツ活用による質保証**

各種『評価』・パフォーマンス評価
・態度評価
・知識(想起・解釈・問題解決レベル)
⇒ **デジタルコンテンツ活用による質保証**



2. 实施体制

Organization

【1】弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター

1. 地域基盤型医療人材育成センターの設置

この事業を実施する体制として、令和4年10月1日付けで医学研究科に「地域基盤型医療人材育成センター」を設置した。

同センターは、医師の地域偏在及び診療科偏在、地域構造の変化などの課題に対応するため、連携校及び協力校並びに協力機関と連携し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。



地域基盤型医療人材育成センターを設置

2. 地域基盤型医療人材育成センター運営会議

センターの管理運営を円滑に行うため、センターに運営会議を設置した。

3. 教育カリキュラム専門部会

教育カリキュラムの開発、編成及び広報等に関する事項を検討するため、運営会議に教育カリキュラム専門部会を設置した。

4. 事業評価専門部会

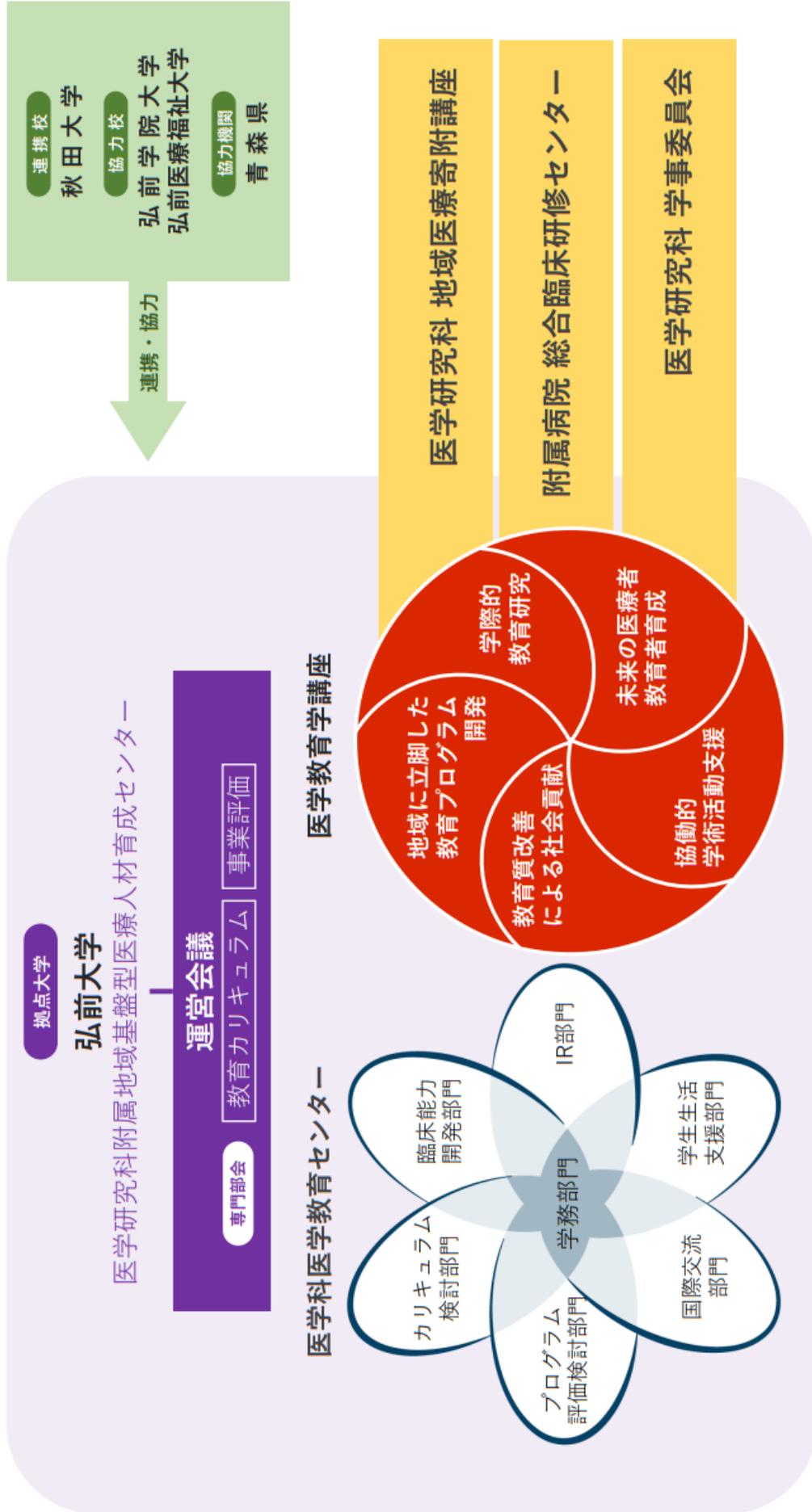
事業評価に関する事項を検討するため、運営会議に事業評価専門部会を設置した。

5. ワーキンググループ（WG）

新規の教育プログラムの開発・検討等を行うため、各WGを設置した。

- ・多職種連携WG
- ・遠隔診断・データサイエンスWG
- ・救急・被ばく・感染症WG

弘前大学「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」実施体制



3. 実施内容

Contents

【1】実施体制の整備

1. 秋田大学との打合せ

令和4年10月26日（水）、本事業の実施体制等について、オンラインにより意見交換を行った。

- 議事
- 1 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」実施体制等について
 - 2 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における工程表について
 - 3 その他

2. 多職種連携WG、遠隔診断・データサイエンスWG及び救急・被ばく・感染症WG合同会議の開催

令和4年11月8日（火）、本学医学研究科大会議室において、新規の教育プログラムの開発・検討等を行うために設置されたWGの合同会議を開催し、本事業の概要等についての説明、各WGの報告を行った。



WG合同会議の様子

3. 地域基盤型医療人材育成センター運営会議の開催

令和4年11月22日（火）に弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議をアートホテル弘前シティで開催した。

同センターの運営会議は、同センターの構成員に加え、事業責任者である本学理事（教育担当）並びに本学医学部、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学の代表者等に青森県健康福祉部長を加えた11名により構成されている。

今回の会議では、一部の参加者はオンライン参加となったが、キックオフミーティングとして、事業責任者・事業総括者である郡千寿子理事（教育担当）の挨拶に始まり、出席者紹介後、同センター副センター長である医学教育学講座鬼島宏教授からの事業説明の上、本学医学部及び秋田大学医学部の令和4年度年度計画の説明がなされた。



運営会議の議事を進行する廣田センター長



挨拶する郡理事（教育担当）



オンライン参加する秋田大学の羽瀨医学部長（左）と永田青森県健康福祉部長（右下）



運営会議の様子

4. 秋田大学視察

令和4年12月13日（火）、本学教員及び事務職員が「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」での連携構築を目的として、秋田大学の視察を行った。

スケジュール

時間	秋田大学対応者等	視察内容等
8:30	1. シミュレーション教育センター2階 緊急ラボ (長谷川教授)	シミュレーション教育見学（4年臨床実習）・シミュレーションセンター見学
9:00	2. 医学教育学講座 (長谷川教授、植木教授、岡崎講師)	挨拶・課題共有
10:00	3. 総合診療医センター・総合診療検査診断学講座・附属病院総合診療部、中央検査部、感染制御部 (植木教授、渡部助教、長谷川諒医師)	総合診療・感染症教育に関するミーティング及び施設見学
11:00	4. 高度救命救急センター (奥山准教授)	施設見学・救急専門医養成に関するミーティング
12:00		昼食
13:00	5. チュートリアル室	初年次 OSCE 見学
14:00		DX技術による麻酔科教育ミーティング (鶴沼医師)
15:00	解散	

1. シミュレーション教育・シミュレーションセンター見学

循環器内科をローテーションする4年生6名への臨床実習生に対する長谷川教授によるマネキンを用いたシミュレーション教育を見学した。胸痛症例への初期対応についてバイタルサイン、心電図、心エコー所見から診断し、初期治療を約1時間で小グループ学習する内容であった。

2年生（20名程度）を対象にする超音波ガイド下での採血・末梢静脈確保手技トレーニングを見学した。履修中の上腕の解剖と手技習得とを効果的に連結した演習がなされていた。

シミュレーションセンターの見学を行った。平成24年前に建設された3階建の建築であり、緊急室ラボ、外科手技ラボ、臨床専門手技ラボ、臨床基本手技ラボなどがあり、それぞれにシミュレーターが配備されていた。専従の臨床工学士1名が配置され、物品や

シミュレーター、ラボの使用記録管理などが実施されていた。医学知識を持つ医療専門職を配置することは精緻や物品メンテナンスのみならず、工学士による学生教育も可能でありシミュレーションセンター運営には非常に有効な手法と思われた。1階にはシミュレーションセンターの教員室、さらには事務室が配置され、事務室は秋田大学医学部附属病院総合臨床教育研修センター、シミュレーションセンター、秋田医師総合支援センターの事務職員が1フロアに集約され、効率的・機能的に教育関連の業務がなされるように工夫がなされていた。OSCEなどの教育行事がある際には、これらの職員が連携し、教育事務チームとして機能することが説明された。

2. 秋田大学・弘前大学の医学教育の特徴及び課題の共有

秋田大学で全学的に用いている Learning Management System の Web Class を見学した。弘前大学の Moodle と同様な形式で用いられ、授業課題の配布、動画教材の提供、小テスト解答と集計などに有効に活用されていた。教員間で使用頻度や使いこなし方に差があることが課題として挙げられていた。また、両校に共通する課題として模擬患者の高齢化、OSCE 公的化対策による負担増などの問題が共有された。OSCE やその演習では可能な限りシミュレーターを活用すること、模擬患者として医学部や附属病院の事務系職員に協力してもらうなどの対策案が挙げられた。

3. 総合診療・感染症教育に関するミーティング及び施設見学

秋田大学では厚労省助成事業により総合診療医センターを令和3年より開設し、また秋田県内4つに分散していた総合診療専門医プログラムを、秋田大学を中心とするプログラムに統合し効率化する試みを令和4年度から開始したことが共有された。これにより、教育資源を集約化し、また各教育施設間の連携を強化し、総合診療教育の質の標準化を図ることが期待されている。今後は、両県の総合診療プログラムの連携も検討していくことが話題に上がった。また、弘前大学では Infection Control Doctor の養成を強化することを報告し、その経験を秋田大学と今後共有する方向性となった。

また、総合診療部外来、感染制御センター、中央検査部を見学した。以前は、総合診療部外来は病院受付近くの1階にあったが、多くの患者を診療するよりも1名の患者に多くの時間をかけて対応する診療スタイルに移行する中で、病院4階の比較的静かなスペースに外来を移動したことの説明があった。また、総合診療部門が感染制御及び中央検査部といった中央部門を兼任することで、病院診療全体の把握が可能になるというメリットも共有された。またそれにより、感染症・感染制御というサブスペシャリティを持った総合診療医の養成も可能であり、総合診療医のキャリアプランの選択肢を増やすことも可能であると思われた。

4. 高度救命センター見学及び救急専門医養成に関するミーティング

高度救命センターの施設及び臨床実習生へのベットのサイド教育を見学した。5年生1名が walk in 患者を医療面接・身体診察により、鑑別診断をあげ、指導医に報告し、検査方針を議論しており、Post CC OSCE レベルに十分合格しうる水準にあると思われた。

5. 初年次 OSCE 見学

1年生を対象に実施している英語での医療面接、腹部超音波検査の OSCE を見学した。医療面接は外部に委託しているネイティブスピーカーと Zoom で面接するものであり、

腹部超音波検査はシミュレーターに対して超音波検査を実施し、あらかじめ定められた部位を描出することが課題であった。教員1名、事務職員2名のみで運営され、誘導は録音された音声を放送し、学生が導線に従って所定の試験室に動き、各試験室は天井に設置されたカメラで録音・録画され、中央管理されたハードディスクに記録されるシステムが構築されていた。評価は教員が録画により実施する方式としていた。初年度であるため厳密な採点ではなく、到達度が不十分な学生を抽出し、再試験によりフィードバックを行うよう Assessment drives learning を念頭に置いた評価という位置付けであった

6. DX 技術による麻酔科教育ミーティング

麻酔科鶴沼医師が計画しているDX技術を用いた効率的な臨床実習手法のアイデアについて議論した。この中で、秋田大学麻酔科が中心となって日本国内に展開している世界麻酔科学会連合(WFSA)と Association of Anesthetists によって開発された小児麻酔のシミュレーションコースであるSAFE(Safer Anesthesia From Education)小児麻酔コースが現在オンラインで定期的実施されていることが情報共有され、小児救急医学を専門とする弘前大学の野村助教に対して同コースの講師への参加招待があり、応需した。また、同コースの受講について青森県内の医師に枠を広げることも可能であることが示され、弘前大学の麻酔科に同コースを紹介することとなった。

7. まとめ

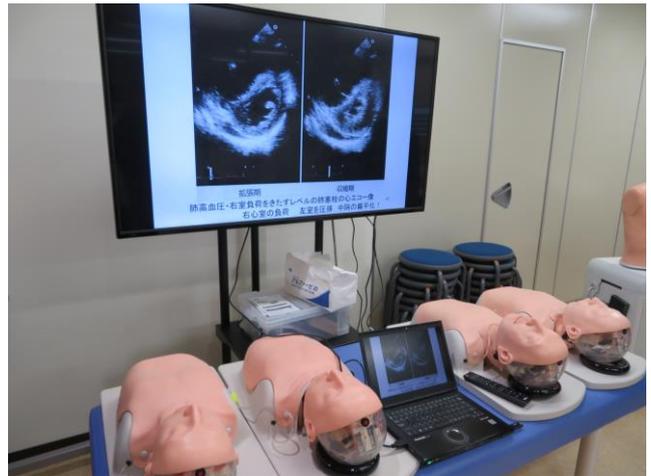
弘前大学とも共通する教育に特化した教員と事務職員の不足という課題について、デジタル機器の有効活用、教育に関する事務部門のオフィスを統合するなどの工夫により解決がなされていたことは注目されるべきと考えられた。シミュレーションセンターに事務職員のみならず医療職を配置することで、質の高いセンター運営がなされていること、感染制御部門と強く連携された総合診療部門を運営していたことも特記すべきことである。今後も積極的に交流をする中で双方のグッドプラクティスを共有することで、両校の医学教育が改善されるものと思われた。



シミュレーション教育の様子



緊急処置ラボ



緊急処置ラボ内のシミュレーター



採血・末梢静脈確保手技トレーニングの様子



シミュレーション教育センター



シミュレーター



シミュレーターの説明を受ける様子



総合診療医センター



初年次OSCEの様子



初年次OSCEの様子



5. 第1回全国フォーラムへの参加

令和5年1月11日（水）に全国フォーラムが一橋講堂で開催された。

本学からは医学研究科長、専任教員、事務職員、秋田大学からは専任教員、事務職員が参加し、採択された11拠点の各代表者をはじめとする本事業の関係者と、今後の人材育成プログラムについて議論した。

プログラム

13：00～13：10 開会挨拶

永田恭介（筑波大学長）

田中 誠（筑波大学医学群長/事業責任者）

伊藤史恵（文部科学省医学教育課長）

13：10～14：15 シンポジウムI 本事業で養成すべき医師像

シンポジスト：北村 聖（東京大学名誉教授、地域医療振興協会顧問、本事業選定委員長）

尾身 茂（新型コロナ対策分科会会長、結核予防会理事長）

14：15～14：30 休憩

14：30～15：55 シンポジウムII 本事業の今後の展開と連携のありかた

シンポジスト：採択校担当者

（弘前大学、筑波大学、千葉大学、富山大学、名古屋大学、岡山大学、

高知大学、長崎大学、宮崎大学、琉球大学、埼玉医科大学）

15：55～16：00 閉会挨拶

若林則幸（東京医科歯科大学理事・副学長）



※撮影時のみマスクを外しております

6. 琉球大学、佐賀大学の来校

令和5年3月9日（木）に琉球大学、佐賀大学から本事業の関係者が来校された。
本学の事業説明の後、意見交換が行われた。

- ・琉球大学：屋良さとみ（医学教育企画室 准教授）
大内 元（救急部 特命准教授）
川妻 由和（沖縄県地域医療支援センター 副センター長 特命准教授）
奥村耕一郎（おきなわクリニカルシミュレーションセンター 特命教授）
具志翔太郎（医学教育企画室）
岩下あゆみ（医学教育企画室）
- ・佐賀大学：小田 康友（地域医療科学教育研究センター長 教授）
福森 則男（地域医療科学教育研究センター 准教授）

スケジュール

時 間	説明内容等	対応者
11:30～12:30	昼食（医学研究科大会議室）	
12:30～13:00	弘前大学のポストコロナ GP 概要	鬼島 宏（医学教育学） 唐牛（専門職員）・柏崎
13:00～13:30	感染制御教育 インфекションコントロールドクター育成	糸賀正道（感染制御センター）
13:30～14:00	防災士取得に向けたカリキュラム 被ばく医療教育	鬼島 宏（医学教育学） 伊藤勝博（災害・被ばく医療教育センター）
14:00～15:00	遠隔医療コミュニケーション 遠隔画像診断	掛田伸吾（放射線診断学） （Teams 対応）
15:00～16:00	健康未来イノベーションセンターの活動 COI 関連の教育研究	伊東 健（分子生体防御学） 三上達也（先制医療学） 玉田嘉紀（医療データ解析学）
16:00～17:00	弘前大学・医学研究科長挨拶	廣田和美（研究科長）
	総括 質疑応答	鬼島 宏（医学教育学） 唐牛（専門職員）・柏崎



※撮影時のみマスクを外しております

7. 「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムの開催

令和5年3月29日（水）、令和4年度 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」採択事業「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムをアートホテル弘前シティにて開催した。

シンポジウムは、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター廣田和美センター長の挨拶の後、第一部では代表校である本学の同センター副センター長の医学教育学講座鬼島宏教授から事業概要説明があり、続いて本学放射線診断学講座掛田伸吾教授から本事業における遠隔画像診断教育に関する説明、本学臨床検査医学講座糸賀正道講師から感染制御教育に関する説明、本学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター辻口貴清助教から防災教育に関する説明が行われた。

第二部では、連携校である秋田大学医学教育学講座長谷川仁志教授から秋田大学における総合力のある医師育成のための取り組み、さらには同校総合診療・検査診断学講座植木重治教授から秋田県での総合診療教育に関する発表がなされた。

第三部として、協力校である弘前学院大学看護学部大瀬富士子教授から同校での生活者の視点を学ぶ教育について、続いて弘前医療福祉大学保健学部看護学科工藤うみ教授から同校での多職種連携教育について説明が行われた。

最後に、医学教育学講座鬼島宏教授から、来年度以降も参画4校が連携して多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育を展開していく旨の挨拶により閉会となった。



廣田センター長（研究科長）



秋田大学 長谷川教授



秋田大学 植木教授



弘前学院大学 大瀬教授



弘前医療福祉大学 工藤教授



医学教育学講座 鬼島教授



シンポジウムの様子

【2】教育改革

1. 弘前大学医学部連携教育施設におけるFDの開催

医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的として、弘前大学医学部連携教育施設におけるFDをオンラインにより、以下のとおり開催した。

- ・日 時 令和4年10月12日（水）16：15～17：15
対象施設 青森市民病院
- ・日 時 令和4年12月14日（水）17：00～18：00
対象施設 大館市立総合病院
- ・日 時 令和4年12月21日（水）16：30～17：30
対象施設 むつ総合病院



F Dの様子

2. 臨床実習の質向上を目的としたFD研修会の開催

令和4年10月19日（水）に本学医学研究科基礎第2講義室において、臨床実習の質向上とさらなる充実を図ることを目的としたFDを開催した。

- 【発表内容】
- ①形成外科学講座
 - ②神経精神医学講座
 - ③脳神経内科学講座

3. 「第1回Hiroasaki University ICLS Course for Medical Trainees」の開催

令和5年1月7日（土）に本学医学研究科臨床研究棟内において、医学生対象の日本救急医学会認定のICLSコース（第1回Hiroasaki University ICLS Course for Medical Trainees）を開催し、弘前大学医学部医学科4年生3名、5年生3名がコースを修了した。



ICLSコースの様子



ICLSコース修了後

※撮影時のみマスクを外しております

【3】秋田大学における初年度の取り組み

1. 「先進デジタル医学・医療教育学講座/デジタル医学・医療教育推進センター」開設

本事業において、秋田大学では「総合的な診療能力育成／6年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラム」（図1）における各分野教育（講義、演習、実習、評価）のデジタル化を推進して教育効果を向上するために、令和4年12月1日に「先進デジタル医学・医療教育学講座/デジタル医学・医療教育推進センター」を開設した。本部門は、図2に示す学内各部門と連携して、県内一体化した総合的な診療能力育成のための効果的デジタル医学教育を推進することを目標として活動を開始している。

図1

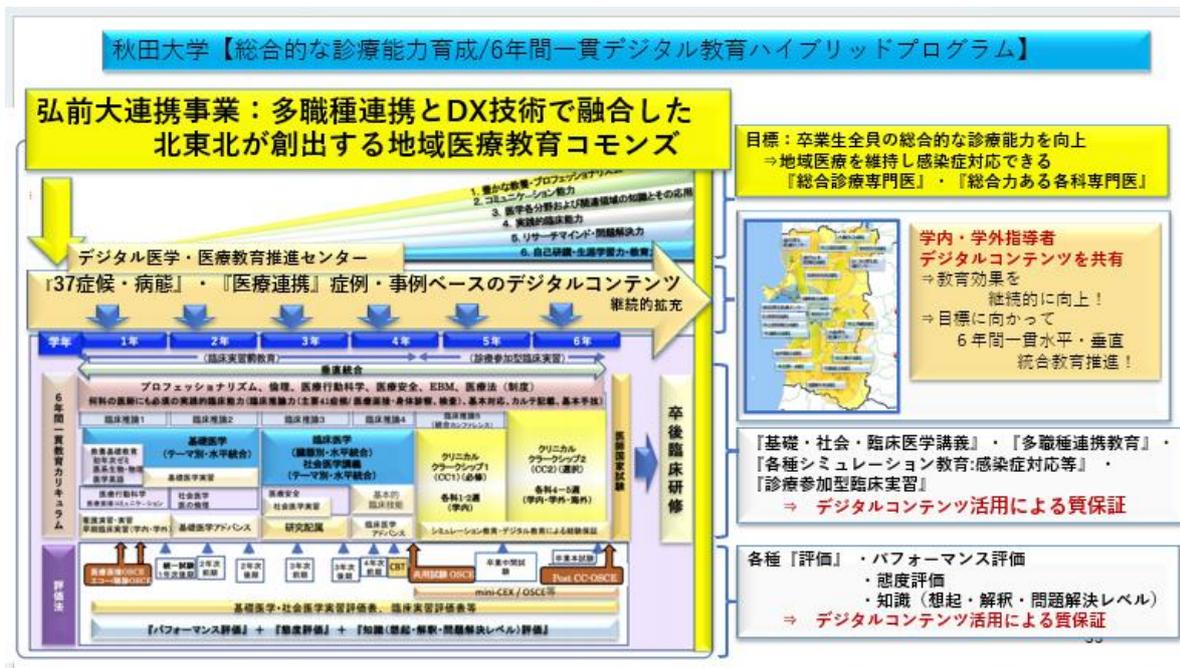
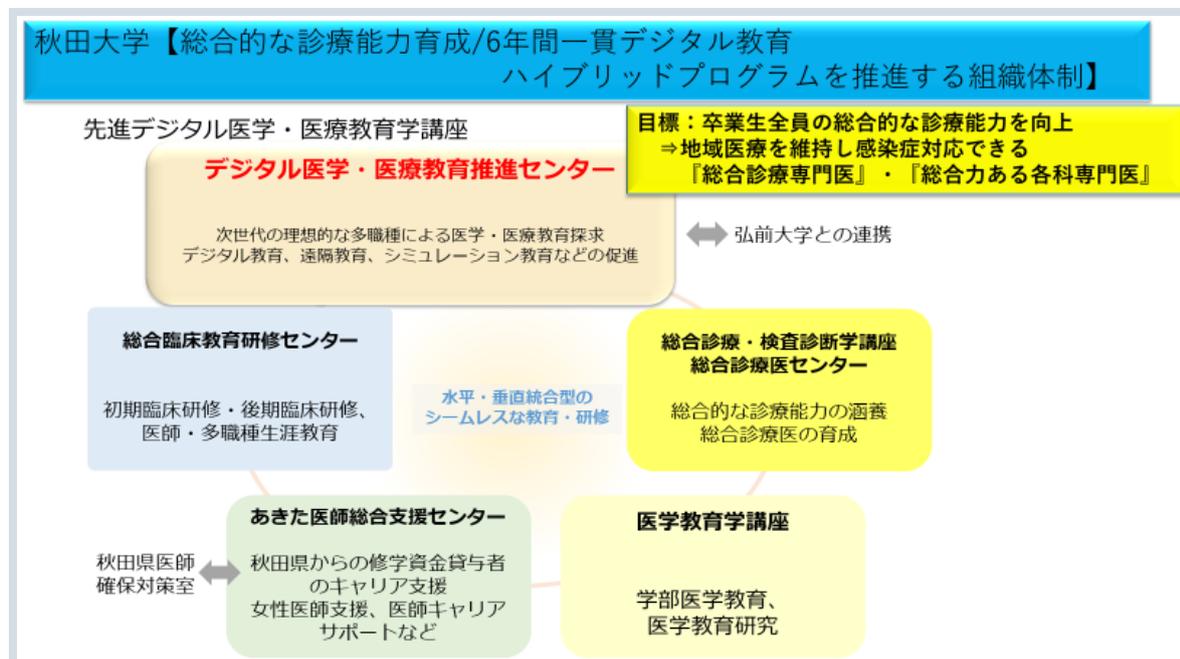


図2



2. 総合的な診療能力育成のために県内一体化した医学教育のデジタル化を推進

初年度は、前記の体制構築と共に、1) 基本的診療技能に関する各分野デジタル教材の充実、2) 臨床実習にご協力をいただいている県内医療機関の指導者と教育内容を共有するe-ラーニングネットワーク体制の整備、3) 病院内の全学生・職員向けネットワーク環境整備、4) オンラインシミュレーションセミナーの共有計画を進めるとともに、以下の各学年における各種デジタル教育コンテンツ（画像・動画＋チェックテスト・ドリル）やデジタル教育手法を充実させ、効果的な医学教育を推進する取り組みを計画しスタートさせている。

【1年次】

1) 初年次ゼミ/医療行動科学

- ①胸痛・腹痛臨床推論に対する基礎医学・臨床医学・医療行動科学と水平・垂直統合した臨床推論・医療面接コンテンツ
- ②解剖学と統合した心エコー・腹部エコー・肺聴診演習の学修効果を上げるデジタルコンテンツ

2) 基礎医学講義・実習

基礎医学と臨床医学の統合教育を推進する各講義・演習で使用するデジタルコンテンツ

【2年次】

1) 基礎医学講義・実習

- ①基礎医学と臨床医学の統合教育を推進する各講義・演習で使用するデジタルコンテンツ

2) 地域医療講義

- ①37症候に対する臨床推論デジタルコンテンツ
- ②地域包括ケア症例検討PBLにおけるweb会議システムを用いた取り組み

【3年次】

1) 臓器別臨床講義

- ①各分野の総合的な診療能力向上に結び付けるデジタルコンテンツ（オンラインのシミュレーション教育も含む）

2) 社会医学講義

- ①各分野の総合的な診療能力向上に結び付けるデジタルコンテンツ

【4年次】

1) 総合診療・検査診断学講義

- ①総合診療や感染症についての総合的な診療に関する学びを深化させるデジタルコンテンツ

2) 臓器別臨床講義

- ①各分野の総合的な診療能力向上に結び付けるデジタルコンテンツ

3) 基本的診療技能講義・演習

- ①総合的な診療の実践レベルを向上するために各講義・演習のデジタル化

②学内・県内医療機関の指導者と共有するe-ラーニングネットワークシステムの構築

【4～6年次：診療参加型臨床実習】

- ①総合的な診療の実践レベルを向上するために、各分野診療参加型臨床実習の充実を目指した各科オリエンテーションのデジタル化
- ②シミュレーション教育の内容をシナリオ・動画等デジタル活用で向上

【各学年における統一試験、OSCEのデジタル化】

- ①各学年の統一試験～卒業試験におけるデジタル教材の活用、動画・音声試験等の併用による総合的な診療能力確認のための効果的な評価を推進
- ②卒業時PCC-OSCE自学13課題：総合的な診療能力育成のためのデジタル動画・音声を用いた実践問題
- ③1年次医療面接OSCE、心エコー・腹部エコー・肺の聴診OSCEや演習におけるデジタル教材

4. 參考資料

Reference

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター規程

令和4年9月21日

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第5条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、医師の地域偏在及び診療科偏在、地域構造の変化などの課題に対応するため、連携校及び協力校並びに協力機関と連携し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 総合的な視点（住民のライフサイクル、地域及び多職種連携等）を涵養する医療人材育成に関すること。
- (2) 急性期・慢性期患者の複合的問題及びパンデミックや災害に対応できる医療人の育成に関すること。
- (3) 地域基盤型医療者教育を実践するための効果的な教材及び教育プログラム開発に関すること。
- (4) その他センターの目的の達成に必要な業務に関すること。

(他大学等との連携等)

第4条 センターの目的を達成するため、次の各号に掲げる連携校及び協力校並びに協力機関と協同で業務を実施する。

- (1) 連携校 国立大学法人秋田大学
- (2) 協力校 学校法人弘前学院弘前学院大学、学校法人弘前城東学園弘前医療福祉大学
- (3) 協力機関 青森県

(職員)

第5条 センターに、次の各号に掲げる者を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他センター長が必要と認めた者

(センター長)

第6条 センター長は、研究科長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長が指名する者をもって充てる。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該副センター長を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

3 副センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任

者の残任期間とする。

- 4 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代理する。

(兼任教員)

第8条 兼任教員は、センター長が指名する者をもって充てる。

- 2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該兼任教員を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

(運営会議)

第9条 センターの管理運営を円滑に行うため、センターに運営会議を置く。

- 2 運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和4年10月1日から施行する。

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター
運営会議内規

令和4年9月21日

(趣旨)

第1条 この内規は、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター規程第9条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議（以下「運営会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営会議は、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（以下「センター」という。）に関する次の事項を審議する。

- (1) センターの運営方針に関すること。
- (2) 教育プログラムの管理・運営等に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事（教育担当）
 - (2) 医学研究科長（センター長）
 - (3) 保健学研究科長
 - (4) 医学部附属病院長
 - (5) 医学教育学講座教授
 - (6) 連携校から推薦された者
 - (7) 協力校から推薦された者
 - (8) 協力機関から推薦された者
 - (9) その他センター長が必要と認めた者
- 2 前項第9号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前項の委員の任期の末日は、当該委員を指名するセンター長の任期の末日以前とする。

(議長及び副議長)

第4条 運営会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 運営会議に副議長を置き、議長が指名する委員をもって充てる。
- 3 副議長は、議長の職務を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 運営会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会等)

第7条 運営会議に、必要に応じて専門部会等を置くことができる。

- 2 専門部会等に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第8条 運営会議の庶務は、医学研究科事務部において処理する。

(その他)

第9条 この内規に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和4年10月1日から施行する。

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議 委員名簿

(令和4年10月1日現在)

附属地域基盤型医療人材育成センター 運営会議内規第3条	氏 名	職名等
(1) 理事(教育担当)	郡 千寿子	
(2) 医学研究科長	廣 田 和 美	(センター長)
(3) 保健学研究科長	齋 藤 陽 子	
(4) 医学部附属病院長	大 山 力	
(5) 医学教育学講座教授	鬼 島 宏	(副センター長)
(6) 連携校から推薦された者	羽 淵 友 則	秋田大学大学院医学系研究科長
	南 谷 佳 弘	秋田大学医学部附属病院長
(7) 協力校から推薦された者	藁 科 勝 之	弘前学院大学長
	下 田 肇	弘前医療福祉大学長
(8) 連携機関から推薦された者	永 田 翔	青森県健康福祉部長
(9) その他センター長が必要と認めた者	野 村 理	医学教育学講座 助教

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の
専門部会設置に関する申合せ

令和4年9月21日

(設置)

- 1 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議内規第7条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議（以下「運営会議」という。）に教育カリキュラム専門部会及び事業評価専門部会を置く。

(任務)

- 2 専門部会は、次に掲げる事項を検討する。
 - (1) 教育カリキュラム専門部会にあつては、教育カリキュラムの開発、編成及び広報等に関する事項
 - (2) 事業評価専門部会にあつては、事業評価に関する事項

(組織)

- 3 各専門部会は、検討課題に応じ、センター長が指名する者をもって組織する。

(部会長)

- 4 各専門部会に部会長を置く。
- 5 各部会長は、センター長が指名する者をもって充てる。
- 6 各部会長は、各専門部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

- 7 各専門部会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

- 8 各専門部会は、必要に応じて協議経過及び結果について、運営会議に報告するものとする。

(その他)

- 9 各専門部会の庶務は、医学研究科事務部が処理する。

附 則

この申合せは、令和4年10月1日から実施する。

教育カリキュラム専門部会 委員名簿

(令和4年10月1日現在)

職名等	氏名	備考
弘前大学大学院医学研究科長	廣田和美	地域基盤型医療人材育成センター長
弘前大学大学院保健学研究科長	齋藤陽子	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座教授	鬼島宏	地域基盤型医療人材育成センター 副センター長
弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座教授	袴田健一	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座助教	野村理	
秋田大学大学院医学系研究科長	羽瀨友則	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 医学教育学講座教授	長谷川仁志	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 総合診療・検査診断学講座教授	植木重治	
弘前医療福祉大学副学長	土澤健一	

事業評価専門部会 委員名簿

(令和4年10月1日現在)

職名等	氏 名	備考
弘前大学大学院医学研究科長	廣 田 和 美	地域基盤型医療人材育成センター長
弘前大学大学院保健学研究科長	齋 藤 陽 子	
弘前大学医学部附属病院長	大 山 力	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座教授	鬼 島 宏	地域基盤型医療人材育成センター 副センター長
弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座教授	袴 田 健 一	
秋田大学大学院医学系研究科長	羽 瀧 友 則	
青森県健康福祉部長	永 田 翔	
秋田県健康福祉部長	伊 藤 香 葉	

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に関する各種WG（弘前大学）

（令和4年11月8日現在）

多職種連携WG

所属・職名	氏名
医学研究科 医学教育学講座 教授	鬼島 宏
保健学研究科 教授	藤田 あけみ
保健学研究科 教授	富澤 登志子

遠隔診断・データサイエンスWG

所属・職名	氏名
医学研究科 放射線診断学講座 教授	掛田 伸吾
医学研究科 医療データ解析学講座 教授	玉田 嘉紀

救急・被ばく・感染症WG

所属・職名	氏名
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター 教授	伊藤 勝博
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター 助教	辻口 貴清
医学研究科 臨床検査医学講座 准教授 （感染制御センター長）	齋藤 紀先
医学研究科 臨床検査医学講座 講師 （感染制御センター副センター長）	糸賀 正道

■シンポジウム チラシ

令和4年度 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」採択事業

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム

日 時：令和5年3月29日（水）13:00～15:00

場 所：アートホテル弘前シティ3階 トパーズ

（〒036-8004 弘前市大町1-1-2）

選定された本学の事業は、北東北国立大学医学部2校および青森県内医療系私立大学2校が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

【プログラム】

- ・ **開会挨拶** 弘前大学大学院医学研究科長 廣田 和美
- ・ **代表校による事業説明等**
 - 弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 教授 鬼島 宏
 - 弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 助教 野村 理
- ・ **連携校による事業説明等**
 - 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻医学教育学講座 教授 長谷川 仁志
 - 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 総合診療・検査診断学講座 教授 植木 重治
- ・ **協力校による説明**
 - 弘前学院大学看護学部 教授 大瀬 富士子
 - 弘前医療福祉大学保健学部看護学科 教授 工藤 うみ
- ・ **質疑応答**
- ・ **閉会挨拶** 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター 副センター長 鬼島 宏

■申込方法：

参加申込受付フォーム、またはFAX（0172-39-5209）、メール（cchpe@hirosaki-u.ac.jp）にて【所属】【氏名】【連絡先電話番号/メールアドレス】を明記の上、申してください。

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム 参加申込受付フォーム

<https://forms.office.com/r/Yc3zEULQYv>

■主 催：弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学

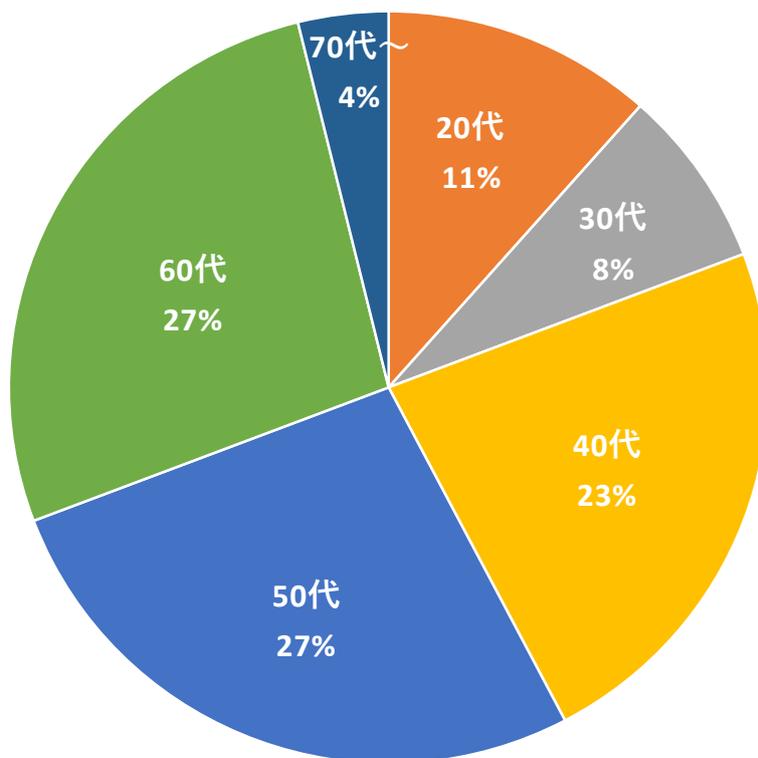
■お問い合わせ：弘前大学医学研究科学務グループ

TEL:0172-39-5202 FAX:0172-39-5209 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp

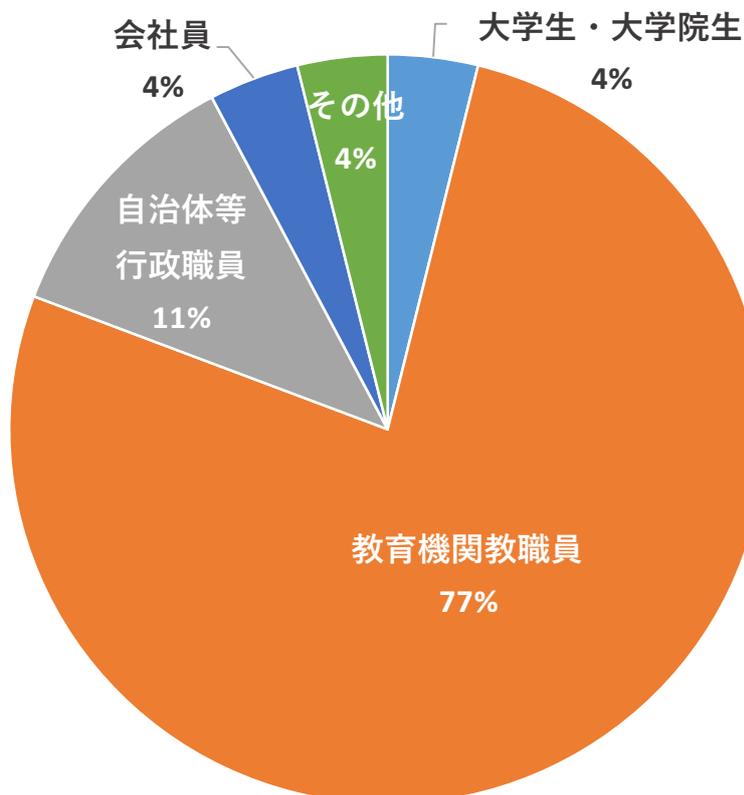


「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム アンケート結果

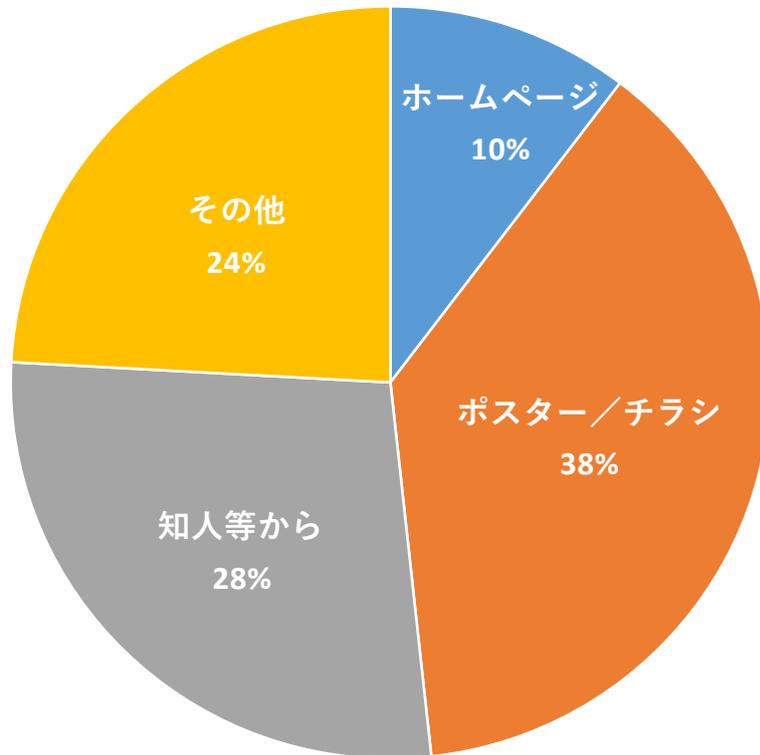
1. 年齢



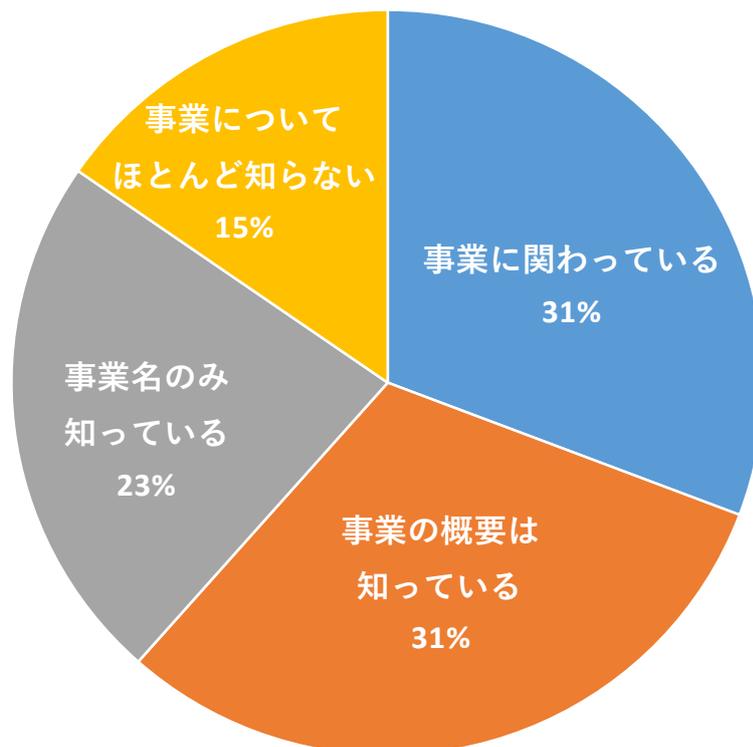
2. 職業等



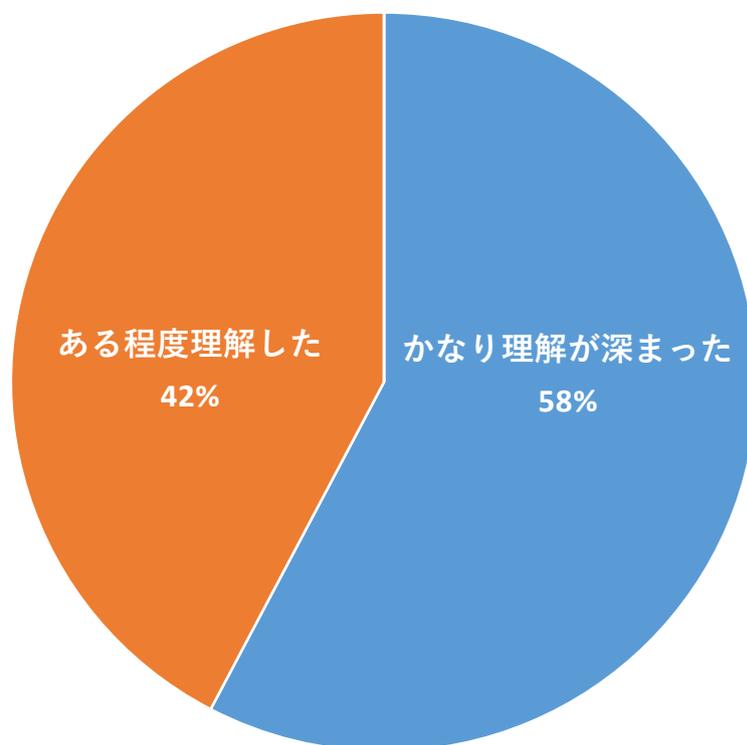
3. シンポジウムの開催を何で知りましたか？



4. 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」をご存知でしたか？



5. 今回のシンポジウムで、事業への理解が深まりましたか？



6. これからの「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業にどのようなことを期待しますか？（自由記述）

<抜粋>

- ・ 学生の動機づけが維持、向上するようにポイントポイントで、確認、フィードバックすることが必要で、事業にも影響すると思います。
- ・ 対話ができる、つながる人材を育てることが東北の医療の底上げに最も近道であると学ぶ機会になりました。
- ・ 看護学生教育と本事業との連携・統合（授業の一部にもなり得る）。
学生が課題を自覚（発見）し、本事業に積極的に参加できるようになれば良いと考えました。
- ・ 普通に生活していても、この事業について学ぶ機会が少ないと思うので、この事業に関する会（講演会やグループワーク）を開催していただきたいです。
- ・ 総合診療医の育成→拠点病院への配置
育成をどのように行うか→連携病院の研修プログラムの標準化
→特色づける工夫が必要
OSCEの充実のためにシミュレーション患者の育成が必要ではないか。
⇒ボランティア？賛同者を募ることも必要か？
- ・ とても濃い内容でした。ありがとうございます。
- ・ 各大学の素晴らしい事業、試みを共有、相互に活用しあえると、よいと思いました。
大変期待できる試みだと思いました。

■「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」新聞掲載記事

陸奥新報 1面 (令和4年11月16日付)

弘前、秋田、弘前学院、弘前医療福祉

4大連携で人材育成

地域医療リーダーに

弘前大学は15日、新たに同大医学部が秋田大医学部、看護職を養成する弘前学院大、弘前医療福祉大と連携し、北東北でニーズの高い総合診療、感染症対応、救急、集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成していくことを明らかにした。参画4大学の教育資源を活用したカリキュラムやオンデマンド教材の開発を行い、人材育成と併せて、全国の他地域にも提案できるパッケージ化も目指す。

弘前大が掲げる事業「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」は、地域が必要とする医療を提供できる医師養成を目指す、文部科学省の大学教育再生

戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の全国11拠点の一つに選ばれた(6月30日付)。これを受け、弘前大は事業を推進するため10月1日付で医学研究科に「地域基盤型医療人材育成センター」を設置した。

「多職種連携」が構築する「多職種連携」「遠隔教育・データサイエンス」「救急・被ばく医療教育」「総合診療・感染症教育」を核とする教育プロ

グラムを受講学生が地域ニーズの高い医療でキャリアを展開することで、過疎化によりニーズが高まる総合診療医の養成、新たな感染症パンデミックや複合災害に対応できる救急・災害医療体制の確立、パンデミックや災害の双方に対応可能

な遠隔診療体制の整備を図る。事業年度は2028年度までの7年間。22日には、同事業のキックオフとして同センター運営会議を弘前市内で開く。
(西尾瑛)

陸奥新報社提供

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

東奥日報 24面 (令和4年11月16日付)

医療人材育成で連携

弘大が秋田大などと文科省、拠点に選定

弘前大学は15日、秋田大学と弘前学院大学、弘前医療福祉大学と連携して医療人材の育成に取り組みと発表した。北東北でのニーズが高い総合診療や感染症、救急、集中治療にたけた地域医療のリーダーを育成するのが狙い。

弘大は、文部科学省が公募した医療人材養成拠点形成事業で全国11拠点の一つに選ばれ、10月1日付で医学研究科内に地域基盤型医療人材育成センターを開設した。

弘大は育成センターに2人の専任教員などを配置し、4校の教育プログラムをクラウド上で共有して運用する。

将来的には育成方法を人工知能(AI)に学習させて商品化し、国内への普及を目指す方針だ。

(赤田和俊)

東奥日報社提供

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

陸奥新報 1面 (令和4年11月23日付)

地域ニーズ対応の医師を育成強化

医学生に防災士資格

弘大など4大学が初会議

専門知識持つ医師増も

文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点として、医療過疎が進む北東北でニーズの高い総合診療や救急・感染症対策にたけた医師の育成強化を目指す弘前大、秋田大、弘前医療福祉大、弘前学院大の連携4大学関係者は22日、弘前市内でキックオフの会議を開き、実施計画などを確認した。計画は2028年度までの7カ年で、弘大、秋田大の両医学生の防災士資格取得や、青森、秋田両県の救急専門医や感染制御の専門的知識を持つ「インフェクションコントロールドクター」を今年度比3倍に増やすことなどを掲げた。(西尾英)

弘大が代表校となり、両県3大学と連携して進める。医師や看護師などの養成事業「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」の一環として、文科省が東

北で唯一選定。これを受け、弘大大学院医学研究科内に10月1日付で「弘前大学地域基盤型医療人材育成センター」を設置した。

地域防災の視点を学生のうちから持つてもらおうと来年度、弘大が先行して防災士取得に向けた教育プログラムを新1年生に導入するほか、チーム医療の重要性などを学ぶ多職種連携によるワークショップの実施、今後一層のニーズの高まりが予想されるへき地医療機関などの遠隔診療のスキルアップなども目指す。秋田大もデジタル医学教育などを進め、人材育成と同時に拠点参加校の教育資源や強みを組み合わせた教育プログラムを開発して、他の医療過疎地域に応用できるモデル教材化を図る。

キックオフとなる会議を開いた(左から)下田肇弘前医療福祉大学長、郡千寿子弘大理事、廣田医学研究科長、薬科勝之弘前学院大学長(秋田大はオンライン参加)



加(秋田大と県はオンライン参加)して22日、同センター運営会議が開かれた。関係者からは「最先端医療をやりたいなど、専門医志向が強い中で、そういった

人たちがやっていたりける体系づくりは必要」「学生教育のうちから、大学間だけでなく、自治体との連携や、地域をよく分かってもう

センター長を務める弘大の廣田和美医学研究科長は「医療人が防災意識をしっかりと持つことは災害時にも役立つし、遠隔診断なども過疎や交通網の弱さがある中で大事。今後、各大学のいいところを取り込んでモデルケース的に展開することで他地域にも役立つものになれば」と話した。

陸奥新報社提供



医療人材育成センター初会合で記念撮影する(左から)下田肇・弘前医療福祉大学長、郡千寿子弘大理事、廣田センター長、高科勝之・弘前学院大学長

総合医育成 デジタル活用

弘大など「人材センター」始動

国が公募した「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点」の一つに選ばれた弘前大学と秋田大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学が22日、運営組織の初会合を開き、本格的に始動した。4大学や学生の実習先病院をオンラインで結び、遠隔地からでも多彩で専門的な授業などを効率的に受けられる教育環境を目指す。中核を担う弘大担当者は「デジタル技術を活用して、広い視野と専門的知識を持ち、総合診療に秀でた人材

を育てたい」と話す。

同拠点は全国11カ所が選定され、弘大など4大学は北海道・東北で唯一選ばれた。国が7年間で計7千万円を支援する。弘大は医学研究科内に運営組織「地域基盤型医療人材育成センター」を開設した。

鬼島宏副センター長(弘大大学院医学教育学講座教授)によると、過疎地域の拡大やコロナ禍による医師・看護師不足を受け、少数で幅広い医療を提供する「総合診療」の需要が高ま

っている。一方、特定の分野に秀でた専門医を目指す学生は少なくないという。

同事業では、講義を録画してオンラインで視聴できる「オンデマンド教材」を製作。他校の学習プログラム

ムが手軽に学べる。また、学生の実習先病院と大学をオンラインでつなぎ、学生が大学の医師らと治療法を相談したり、医療画像診断などを学ぶ。

鬼島氏は「専門医志向の学生にも、専門的な知見を学びながら総合診療の魅力を知ってもらえる」と話す。

同事業のもう一つの柱は医師や看護師、医療技師ら多職種連携。4大学の学

生が仮想の医療チームを組み、治療法や患者への対応を話し合うグループワークを行い、チーム医療に必要なコミュニケーション力などを身に付ける。

22日に弘前市内で開いた同センターの初会合では、4大学の委員らが事業の進め方などを話し合った。廣田和美センター長(弘大大学院医学研究科長)は取材

に「(全国的に)過疎化が進み、遠隔学習システムが重要になっていく。デジタル技術を使った医療人材教育の全国モデルにしたい」と語った。(赤田和俊)

東奥日報社提供

陸奥新報 4面 (令和5年3月30日付)

防災や感染制御重点

弘大など4大学 医療人材養成へシンポ

文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点として、医療過疎が進む北東北でニーズが高い総合診療や救急、感染症などを横断的に学ぶことができる教育を実施。代表校である弘前大をはじめ各大学が取り組んでいる内容を紹介します。

目的のうち二つを修了すると防災士受験資格を得られ、すべて修了すると学内独自の称号「弘大災害対応マネージャー」が与えられる。他学部や高校生、社会人も履修可能で、講師は大学教員のほか弘前地区消防事務組合や青森地方気象台、県防災士の専門家からも招聘する。23年度は200、300人が受講するとみられ、学内でも大規模なクラ

スとなる見込みという。もう一つ力を入れるのが感染制御の専門知識を持つ「インフェクションコントロールドクター（ICD）」の育成で、弘前大は医学部附属病院の各病棟から年間1人を選出して育成していく方針。ICDは現在県内に60人いるが、基幹病院に勤務しているのは28人とい

い、将来的に現在の3倍に増やしたい考え。ほかに放射線診断学分野では、県内全域の医療機関でネットワークをつくり、症例を集めてまれな疾患を診断する機会をつくることで専門医の診療レベルの底上げを図る。同事業は全国11拠点ある。うち弘前大など4大学が進める医師や看護師らの養成事業「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」は北海道・東北で唯一選定された。事業の実施期間は28年度までの7カ年で、文科省から年間最大7000万円の支援を受ける。弘前大内では大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（センター長・廣田和美医学研究科長）が実施主体となる。

(石田紅子)



弘前大をはじめ連携4大学がそれぞれ取り組んでいる事業内容を説明したシンポジウム

養成事業の目玉には防災教育があり、弘前大は2023年度から教養教育科目群に3科目を新設し、医学部と理工学部の新入生から実質必修化する。3科

陸奥新報社提供

東奥日報 28面（令和5年3月30日付）

「チーム医療学べる」 弘大が4大学連携シンポ

弘前大学の地域基盤型医

療人材育成センターは29日、秋田大学や弘前学院大学、弘前医療福祉大学と共同で進めている医療人材育成事業についてのシンポジウムを弘前市のアートホテル弘前シティで開き、事業



医療人材育成事業について説明する鬼島副センター長

の展望などを説明した。

弘大などは昨年10月、国の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点」の一つに選ばれた。同センターを中心に、各大学や学生の実習先病院をオンラインで結び、遠隔地からでも多彩で専門的な授業を効率的に受けられる教育環境を目指す。事業期間は7年間。

鬼島宏副センター長（弘大医学教育学講座教授）は4月から「遠隔医療コミュニケーション」「防災医療

人材育成」などの教育プログラムをスタートさせると説明。「医師や看護師などさまざまな職種によるチーム医療を学べるのも（4大学による事業の）利点の一つ」と強調した。

シンポジウムには約50人が出席。各大学の担当者が本年度の取り組みやオンライン連携のメリットなどを語った。（赤田和俊）

東奥日報社提供

■連携教育施設におけるFD チラシ

弘前大学 医学部主催

令和4年度 弘前大学医学部連携教育施設 におけるFD

令和4年10月12日

午後4時15分～午後5時15分

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、5・6年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っています。今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的としてFDを開催いたします。



■実施方法 オンライン（Microsoft Teams）

■次第（1）挨拶

（2）説明

①弘前大学における医学教育の現状について
鬼島 宏 弘前大学医学部医学科学務委員長

②診療参加型臨床実習の現状について
袴田 健一 弘前大学医学部医学科副学務委員長

（3）学内臨床実習内容の紹介

（4）意見交換

対象者：青森市民病院において臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいている指導医等

【お問い合わせ先】弘前大学医学研究科学務グループ

TEL:0172-39-5204/Mail:jm5234@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学 医学部主催

令和4年度 弘前大学医学部連携教育施設 におけるFD

令和4年12月14日

午後5時00分～午後6時00分

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、5・6年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っています。今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的としてFDを開催いたします。



■実施方法 オンライン（Microsoft Teams）

■次第（1）挨拶

（2）説明

①弘前大学における医学教育の現状について

鬼島 宏 弘前大学医学部医学科学務委員長

②診療参加型臨床実習の現状について

袴田 健一 弘前大学医学部医学科副学務委員長

（3）学内臨床実習内容の紹介

（4）意見交換

対象者：大館市立総合病院において臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいている指導医等

【お問い合わせ先】弘前大学医学研究科学務グループ

TEL:0172-39-5204/Mail:jm5234@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学 医学部主催

令和4年度 弘前大学医学部連携教育施設 におけるFD

令和4年12月21日

午後4時30分～午後5時30分

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、5・6年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っています。今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的としてFDを開催いたします。



■実施方法 オンライン（Microsoft Teams）

■次第（1）挨拶

（2）説明

①弘前大学における医学教育の現状について
鬼島 宏 弘前大学医学部医学科学務委員長

②診療参加型臨床実習の現状について
袴田 健一 弘前大学医学部医学科副学務委員長

（3）学内臨床実習内容の紹介

（4）意見交換

対象者：むつ総合病院において臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいている指導医等

【お問い合わせ先】弘前大学医学研究科学務グループ
TEL:0172-39-5204/Mail:jm5234@hirosaki-u.ac.jp

■臨床実習の質向上を目的としたFD研修会 チラシ



第8回

臨床実習の質向上を目的とした

FD研修会

日時：令和4年**10月19日**(水)
17:30~18:30

場所：基礎第2講義室

《発表内容》

- ① 形成外科学講座（20分）
- ② 神経精神医学講座（20分）
- ③ 脳神経内科学講座（20分）

問い合わせ先：医学研究科学務グループ（内線5234）

令和4年度 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」採択事業
「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する
地域医療教育コモンズ」事業
令和4年度 事業成果報告書

発行日 令和5年8月

編集・発行 国立大学法人弘前大学大学院医学研究科
附属地域基盤型医療人材育成センター
〒036-8562 青森県弘前市在府町5
TEL 0172-39-5202 FAX 0172-39-5209
E-mail cchpe@hirosaki-u.ac.jp
Web <https://www.cchpe-hirosaki-u.jp/>

【代表校】

国立大学法人弘前大学

【連携校】

国立大学法人秋田大学

【協力校】

学校法人弘前学院 弘前学院大学

学校法人弘前城東学園 弘前医療福祉大学